

# 徳くほ報

No.0050

発行  
令和3年12月  
発行元 徳泉寺  
仙台市宮城野区  
榴岡3-10-3

(022)297-4248

メールアドレス

[tokusenji.send](mailto:tokusenji.sendai@gmail.com)

[ai@gmail.com](mailto:ai@gmail.com)



ホームページ

[tokusenji-sendai.com](http://tokusenji-sendai.com)



Instagram

[tokusenji.sendai](https://www.instagram.com/tokusenji.sendai)



TOKUSENJI.SENDAI

## 二〇二一年を振り返って

コロナ禍の続いた二〇二一年。すっかりマスクが顔の一部となつてしまつたように感じます。皆様、どんな一年をお過ごしでしたでしょうか。徳泉寺はどうだったかな、住職と前任職に振り返ってもらいましょう。

Q二〇二一年はどんな一年でしたか？

**前任職** あつという間の一年でした。窮屈に感じることもありましたが、大きく体調を崩すこともなく、閉塞感のなかでもコロナ禍での日常生活に慣れてきた一年だつたように感じます。ワクチンを接種して少し気持ちが楽になつた面もあつたかもしれません。

**住職** 工夫の一年でした。制約があつてできないことが多かつたのですが、そんな中でもなんとか人とつながりを持つとうとあれこれと工夫の連続でした。うまくいったことも、うまくいかなかつたこともありましたが、なんとかしたいと考え続けました。

Qたとえばどんな工夫がありましたか？

**住職** 徳泉寺のことについて言えば、先ず法要や同朋会の在り方を考えさせられました。大事なことは何か、すべて中止にするのではなく他の寺院やお医者さんからも情報を得ながらできる限り開催してきました。「こどものつどい」も少人数にしてその代わり開催日を増やすことで実施できましたし、かえつてこじんまりとしてよかつた面もありました。

他にも関わらせていただいている仙台教区(岩手・宮城・福島三県の真宗

大谷派寺院)の震災関連連事業や地域、PTAの行事など、いろんなところでいろんな人と協力しながら工夫を重ねました。オンラインでの会議やSNSでの情報発信など今までと違った形を取り入れながら、人と人との関わりを何とか絶やさないように試行錯誤し、新しい発見もたくさんありました。

**前任職** やっぱり同朋会や法要などで、いつも顔を合わせていた方たちと何ヶ月も会えないのは寂しく感じ、あの人どうしているかなと心配にもなりました。まだまだ前のように気軽ににお茶っこ飲みをしたりはできませんが、それでも顔を見てお話を聞いていただく場を最低限、確保してこられたかと思えます。

Q来年はどんな年にしましょうか。

**住職** まだまだ状況を見ながらですが、停滞することなく人と人との関わりを繋いでいけるといいなあと考えています。個人的にはPTA活動が一区切りを迎えそうなので、お寺に専念できるのではないかと思つています。

**前任職** 早く皆さんとなんの気兼ねもなくお茶やビールを飲んでしゃべつて笑い合う生活が戻つてくるといいなあと思つています。そのためにも健康と安全には注意したいですね。

今年もまた、命いつばい生きるこの難しさを学ばせていただきました。仏の教えを聞きながら、一日一日いただいた命をかみしめながら来年もみなさまと共にありたいと思つています。ありがとうございます。